



# JICAは民間企業と どのように連携しているの？



開発途上国の持続的な経済発展に不可欠な企業活動。

JICAは、途上国での活動を広げる民間企業と、さまざまな形で連携を進めている。



(上) 円借款で整備されたカンボジア・シハヌークビル港。魅力的な投資環境づくりに貢献している  
(左) JICAとソニーによるHIV／エイズ啓発イベントの宣伝パレードを行う若者たち

JICA民間連携室  
調査役



廣田 祐子

PROFILE

大学卒業後、1995年に海外経済協力基金(当時)に就職。タイやミャンマーの円借款事業、人事、環境社会配慮審査などに携わる。2008年10月より現職。

## 「企業との連携を強化し、途上国の持続的な発展を支えます」

近年、途上国援助の世界では、民間企業の活動に期待が高まっています。開発途上国が持続的に経済発展を遂げるためには、企業による投資や産業開発、貿易の拡大が重要です。企業の進出は現地に雇用機会を生み、人々の生計向上に貢献するほか、技術やノウハウが移転されることで、産業や地域経済の活性化につながり、開発に貢献します。

こうした背景から、JICAでは、港湾、電力、上下水道といったインフラや投資環境の整備など、企業活動を促すさまざまな支援を行っています。また、途上国政府が企業の資金や技術を活用し、効果的・効率的に国民へ公共サービスを提供できるようになるため、途上国政府と企業の連携の仕組みづくりなども支援しています。

さらに最近、「企業活動の存続は、良好な環境や社会の安定があつてこそ」との認識が企業の間で浸透したこともあり、CSR(企業の社会的責任)活動の一環で環境問題に取り組んだり、ビジネスと貧困層の人々の生活改善を両立させたモデルを開発したりと、企業側も途上国が抱える地球規模の開発課題に関心を寄せていました。そして、こうした企業の取り組みと、JICAの支援事業や青年海外協力隊の活動などが連携する、新しい事例が広がりを見せています。

その一つが、JICAとソニー株式会社が連携して今年6～7月にガーナで実施した、HIV／エイズ教育支

A

### 「民間連携 一民間企業の皆様へ」



[http://www.jica.go.jp/priv\\_partner/](http://www.jica.go.jp/priv_partner/)

JICAの企業連携の事例はこちらから!

援の共同イベントです。ガーナでは、2010年のFIFAワールドカップを控え、サッカーへの関心が高まっていますが、テレビの普及率が低い地方の人々は、試合を見る機会がほとんどありません。そこで、FIFAのオフィシャルパートナーであるソニーが、CSR活動としてパブリックビューイングの開催をJICAに提案。JICAがガーナで実施しているHIV／エイズ予防の啓発・教育事業のイベントの中で、ソニーの高性能大型スクリーンを使い、試合が中継されました。イベントには、若者を中心多くの人々が足を運び、通常の約3倍もの人々がHIV／エイズのカウンセリングや検診を受け、大きな成果を上げました。

JICAでは、こうした取り組み以外にも、国内外においてさまざまな形で企業との連携を進めています。今後も企業のニーズを踏まえ、途上国の開発に貢献できる方法を模索しながら、さらに連携を強化していくたいと考えています。